

「カレントサーチ」交流会あいさつ

令和8年8月25日(火)

皆さん、こんにちは。山梨予備校の斉木です。各高校、大学の先生方には日頃よりたいへんお世話になっております。毎回この場に立つ機会を与えられ、恐縮に感じていますが、予備校は教育改革の動きにはあとからついていくしかない面もありまして、いつもながら曖昧なご挨拶を申し上げます。

さて、本日も厳しい残暑が続いています。高校では夏休み明けの授業がすでに始まっているのでしょうか。山梨予備校では夏期講習会が予定通り終わり、現在は、来週からの後期授業に向けて準備を進めているところです。高校生も大学生も、そして先生方も、さらにおまけに浪人生も夏休みがたいへん忙しくなりました。

今回は、山梨大学と山梨県立大学で新しく始まる取り組みについてのお話を中心と伺っています。大学受験生を指導する高校の先生方には、特に地元の大学での取り組みについての話で、大いに関心のあるテーマだと思います。予備校としてもしっかり勉強させていただき、生徒に確実に伝えたいと思います。

2028年度からの第5期教育振興基本計画について文部科学大臣が中央教育審議会に諮問、という新聞記事を目にしました。諮問の中に答申の内容が入っているのも不思議なのですが、それはさておき今回は不足する理系人材の育成も重点項目で、理系学部の新設・定員増や文理融合教育の導入に向けた動きも記事にありました。

私はその昔、1年間の浪人生活の後、理系も文系もごっちゃに受験し、理系の学部に入學、4年後に卒業したのは文学部でした。これは理系人材の育成の失敗とか、ましてや文理融合などという話ではなく、理系と文系の間でさまよう私がいただけの話ですが、このさまようのを無駄と捉え、事前に何とか避けようとする窮屈な話になります。

何の役に立つかわからないけど好きな勉強に没頭する、卒業後の心配よりも大学では学びたいことをまずやってみる、若い人たちのそういう姿も、それは頼もしく応援したい。目標に向けて一直線!もいいですが、効率を重視し、無駄を省くことに生徒も先生も忙しい、こういう状況では効率もよくないと思います。曖昧な上に締まりのない挨拶で失礼しました。本日もよろしくお願いいたします。